

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

地域と共に廃線反対の運動を

6/25 内房線と地域を守る会 第7回総会



6月25日、館山市内で「内房線と地域を守る会」の第7回総会が開催されました。

内房・外房・久留里の連携を確認

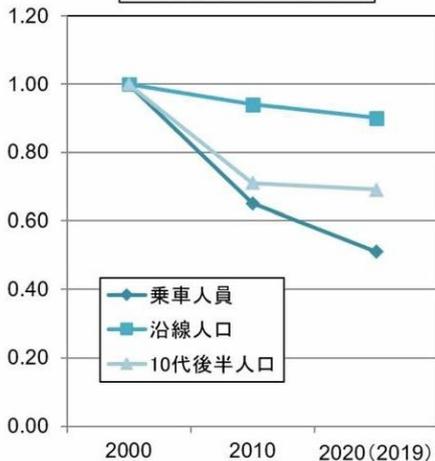
国交省とJR東日本が一体となってローカル線の廃線化―久留里線の廃線に向けて検討会や住民説明会を矢継ぎ早に行っています。

総会では、「内房線と地域を守る会」「外房線と地域を守る会」「久留里線と地域を守る会」が連帯して、久留里線の廃線化阻止に向けて取り組むことが確認されました。

梅沢和子代表は「久留里線が廃線の対象になっ

ている。もし廃線になったら人が住むのか、若者が帰ってくるのか？

内房線 君津―館山間



6/22 東洋経済オンライン「赤字ローカル線の惨状、本当に「人口減」が原因か 沿線人口は微増だが利用者数が減った例も」

地方消滅になりかねない。公共交通の使命を忘れたJRに声をあげよう」と訴えました。

本当に人口減が理由なのか？

深澤社長は「沿線人口が減る中で利便性をいから改善しても需要喚起には限界がある」と主張しています。しかし、実際には人口が微減や微増の地域でも、鉄道利用者が大きく減少しています。千葉でも内房線の君津―館山間の沿線人口はこの20年で約1割減ですが、乗客数は半減しています。

内房線の南側については、列車本数の少なさや東京直通列車がほとんどないことが問題として指摘されています。

久留里線についても、「そもそも使いたい時間帯に列車がない」と声があがっています。専門家も「値上げや減便をすれば乗客が減るのは当然」と指摘しています。

職場においては統括センター化・兼務化、業務融合化やワンマン拡大などの攻撃が進められています。地元とJRの職場から共に廃線化反対、業務融合化・ワンマン化反対の声をあげよう。